

# 言語活動と一体的に行う文法指導

新学習指導要領では、文法は「コミュニケーションを支えるもの」と重要視されています。どのような指導が求められているのか確認してみましょう。

## 1 文法指導のポイント

- 文法指導は、言語活動と効果的に関連付けて指導する。
  - ✕ 体系的に説明することに終始するような指導
- 文法定着が目標でなく、英語を使って「聞く」「話す」「読む」「書く」ことができることが目標です。
- 言語活動を通して、文法事項の規則に生徒自らが気付いたり、言語材料を正しく活用したりできるよう配慮することが必要です。

## 2 言語活動と一体的に行う文法指導の一例

授業の1部（あいさつ、帯活動などを除く）

| 学習内容                    | 留意点等  |
|-------------------------|---|
| ①オーラルイントロダクション<br>(英語で) | まとまった英文（新出文法事項を含んだ）を生徒に聞かせる。新出文法事項を既習事項と関連付け、強調しながら、自然に繰り返し提示することがポイント。   |
| ②生徒とのインタラクション<br>(英語で)  | ①から自然な流れで、生徒とのやりとりに移行する。新出文法事項が含まれるので、 <u>生徒の応答は不完全なことが多い</u> 。教師が正しく言い換え、全体に示しながら、 <u>応答を繰り返す</u> ことで、未習事項でも正しく答える生徒も見られるようになる。（①②は同時に進むケースもあります。） |
| ③確認（説明）                 | 自然な流れを崩さずに、対話の内容等について簡単に確認（説明）する。 <u>生徒の「気づき」を確認しながら進める</u> 。①②がうまくいくほど、この時間はかからずに済む。   |
| ④ドリル活動<br>(英語で)         | パターンプラクティスなど機械的な定着のためにドリル活動を行う。全体、個で言わせるなど飽きのこないようにテンポよく行う。   |
| ⑤コミュニケーション活動<br>(英語で)   | 文法事項の「機能」や「場面」を考え、 <u>意味のやりとりのある</u> コミュニケーション活動を行う。生徒自身のことを表現できる内容を含めるようにする。   |
| ⑥まとめ                    | ⑤の活動についてコメントする。よい表現等を取り上げるなどし、既習の文構造などと比較しながら <u>文法事項を整理し、理解を深める</u> 活動を行う。   |

※ 1 単位時間では完結しません。この後の繰り返しの指導が必要です。

A

①オーラルイントロダクション②生徒とのインタラクションでは、生徒が「何について話しているのだろうか?」「どう答えればよいのだろうか?」と考えながら活動させることが大切です。

【明日の予定についての内容のようだ。going to という語句が繰り返されているので、何か関係ありそうだなあ…。】等と言語への意識が高まるようにしたいです。

生徒とのやりとりでも、

S1: Tennis.

T: OK. Mr. Tanaka is going to play tennis tomorrow.

How about you, Mr. Yamada?

S2: I.....watch a movie tomorrow.

T: OK. Mr. Yamada is going to watch a movie tomorrow.・・・

などと、生徒の応答を正しい英文で補い、be going to への意識を高め、【予定を表す時は、be going to を一般動詞の前に置いて使用するようだ。】という「気づき」につなげてほしいと思います。

また、使用英語は、生徒の実態を考え、難易度があまり高くないように配慮したいです。難しい時は、絵や写真・映像、実物などを提示しながら聞かせるのもよいでしょう。

B

④ドリル練習における活動は、機械的なもので、あくまでも文法事項定着を目指したものです。

ここでは、あくまでも、文法は意識しつつも、相手との意味のやりとりに焦点を当てた活動を行います。また、友人と「話す」活動を行った後に、その内容をまとめるような「書く」活動を行う等、言語活動を組み合わせる工夫もしたいところです。

単元のまとめの活動等では、生徒が使用する英文を限定（例えば現在進行形を使う）することをせず、英文をある程度自由に活用できるような活動にもぜひ挑戦してみてください。表現力等が育まれます。

C

⑥が抜けてしまうことが多いので気をつけたいところです。ここが抜けてしまうと「活動あって定着のない」授業になってしまいます。

生徒のよい表現をとりあげクラス全体で共有したり、例文を提示しクラス全体で推敲したりして、学習した文法事項についてさらに正しく活用できるよう深化・補充を図ったり（既習事項との比較しながら）、生徒の表現力を高めたりすることが大切です。

この**まとめの時間をしっかり確保**してほしいと思います。